

(様式第 1 号)

平成 30 年 5 月 2 日

認定介護福祉士認証・認定機構
理事長 様

領 域 名 : リハビリテーションに関する領域
科 目 名 : 自立に向けた生活をするための支援の実践
単 位 数 : 2
認証申請する研修の名称 : 認定介護福祉士養成研修

団体名 : 公益社団法人
日本介護福祉士養成施設協会
群馬県介護福祉士養成校協議会 一般社団法人 群馬県介護福祉士会
団体事務所 : 〒371-0823 〒371-8525
の所在地 群馬県前橋市川曲町 191-1 群馬県前橋市新前橋町 13-12
電話 : 025-253-0294 027-255-6226
FAX : 027-254-0294 027-255-6173
E-mail : shimizu-k@shoken-gakuen.ac.jp

下記書類を添えて上記科目に対する研修の認証を申請します。

団体代表者 : 鈴木 利定 ㊞

団体代表者 : 小池 昭雅 ㊞

申請責任者 : 白井 幸久

記

○認定介護福祉士研修認証申請書 (別紙 1 ~ 3)

<機構使用欄>

受付	
確認	
委員付託	
追加連絡	
評価報告	
理事会承認	
認証番号	

(別紙1) 認定介護福祉士研修認証

※申請受付番号

(※は記入しないでください)

認定介護福祉士研修認証申請書

申請年月日	平成 30 年 5 月 2 日
申請団体名	公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会 群馬県介護福祉士養成校協議会 一般社団法人 群馬県介護福祉士会
申請団体代表者氏名	鈴木 利定 小池 昭雅
申請責任者職名 申請責任者氏名	群馬医療福祉大学 短期大学部 教授 白井 幸久
団体住所 同 Tel・Fax メールアドレス	公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会 群馬県介護福祉士養成校協議会 〒371-0823 群馬県前橋市川曲町 191-1 Tel : (025)-(253)-(0294) Fax : (027)-(254)-(0294) E-mail <u>shimizu-k@shoken-gakuen.ac.jp</u> 一般社団法人 群馬県介護福祉士会 〒371-8525 群馬県前橋市新前橋町 13-12 Tel : (027)-(255)-(6226) Fax : (027)-(255)-(6173)
申請対象の領域	領域名 : リハビリテーションに関する領域
科目名 (単位数)	科目名 : 自立に向けた生活をするための支援の実践 (2 単位)
申請する研修名	認定介護福祉士養成研修
研修認証実績	年 認証番号 () 年 認証番号 () 年 認証番号 ()
その他特記事項	

(別紙2) 認定介護福祉士研修認証

認証申請科目に対する研修の内容

申請対象の領域	リハビリテーションに関する領域	
科目名	自立に向けた生活をするための支援の実践	
(1) 提供する研修について		
研修名	認定介護福祉士養成研修	
教育目的	<ul style="list-style-type: none"> ・残された能力を使って、生活範囲と動作の拡大を図ることができる力を育成する。 ・変形・拘縮の予防などを理解し、生活の中で実施することができる力を育成する。 	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・更衣・食事（摂食・嚥下）・排泄・入浴・整容等の日常生活動作全般に関する考え方や知識を習得し、支援に活用できる ・高齢者や障害者にとっての栄養を理解し、支援に活用できる ・利用者の疾患・障害等に応じた、更衣・食事（摂食・嚥下）・排泄・入浴・整容等を支援する根拠を理解し、疾患・障害等に応じた適切な支援を選択・実践できる。 ・移動（移乗を含む）の意味や目的を理解し、利用者の状態に応じて適切な移動方法を選択・実践できる。 ・リハ職種との連携や介護チームの指導を行うために必要な知識・技術を身に付け、支援の根拠を言語化し、連携や指導ができる。 ・利用者の能力を活かす支援を考えることができる。 ・可能な限り利用者の社会参加の機会を作ることができる。 	
研修内容（研修プログラム）	含むべき内容	研修プログラム
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 疾患別リハビリテーションの基礎 <ul style="list-style-type: none"> ・ 脳神経系疾患 ① 認知症（MCI、アルツハイマー型認知症、脳血管型認知症、レビー小体型認知症等） ② 神経筋疾患（パーキンソン病、ギランバレー症候群等） <ul style="list-style-type: none"> ・ 脳血管障害（脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血、TIA等） ・ 高次脳機能障害 ・ 精神障害（統合失調症、気分障害、アルコール関連障害、等） ・ 循環器・呼吸器疾患 ③ 循環器・呼吸器疾患（虚血性心疾患・慢性閉塞性肺疾患・誤嚥性 	<p>事前課題①（2時間） 「自立支援に向けたケアとは何か？」と題して、「介助」と「自立支援」との違いといった視点や、介護福祉士として望ましいケアの視点から、1,600文字程度で論述し、持参すること。</p> <p>事前課題②（3時間） パーキンソン病、虚血性心疾患、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患の4つの疾患について、その疾患の原因、特徴的な症状、標準的な治療方法について調べたことをまとめ持参すること。文字数は特に指定しないが、参考資料や引用文献などは文末に明記すること</p> <p>講義①（3時間） 神経筋疾患（パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、重症筋無力症など）と脳血管障害について、各疾患の原因と疾患特異的な症状、それらの</p>

<p>肺炎)</p> <p>④代謝性疾患（メタボリック症候群[高血圧・脂質異常症・糖尿病・肥満）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筋骨格系疾患 <p>⑤骨関節疾患（変形性関節症、骨粗鬆症、関節リウマチ）</p> <p>⑥高齢者に多い骨折等（大腿骨頸部骨折・橈骨遠位端骨折、腰椎圧迫骨折等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・切断・脊髄損傷 ・知的障害 ・発達障害 ・その他の疾患：白内障、緑内障、老人性難聴 <p>○日常生活動作（ADL）指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・更衣・食事（摂食・嚥下）・排泄・入浴・整容等の日常生活動作全般についての知識 <p>○日常生活動作介助・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾患・障害等について、疾患・障害の特徴をふまえた日常生活動作の支援を実施するための知識 <p>○シーティング・移動（移乗を含む）支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の心身機能で行える、確実・安全な移動方法の選択 ・獲得可能な移動方法の選択 ・各移動手段獲得 ・獲得すべき移動手段に必要な能力・機能の評価 <p>○リハ職種との連携や介護チームの指導を行うために必要な知識・技術</p>	<p>生活支援上の注意点について学ぶ。</p> <p>講義②（3時間）</p> <p>高次脳機能障害、精神疾患、神経変性疾患による認知症（アルツハイマー病、レビー小体病、前頭側頭葉変性症など）、発達障害に対する症状や対応の基本について学ぶ。</p> <p>講義③（3時間）</p> <p>循環器疾患、呼吸器疾患、代謝性疾患における各疾患の特徴と、生活支援上の注意点などを学ぶ。</p> <p>講義④（3時間）</p> <p>整形外科疾患（変形性関節症、骨折、脊柱管狭窄症など）とその基本的な治療方法を学ぶ。それらの知識を踏まえ、荷重制限や禁忌肢位、拘縮・変形について理解し、日常生活上のケアで配慮すべきポジショニングやシーティングについての理解につなげる。</p> <p>講義⑤（2時間）</p> <p>脊髄損傷、切断に関する基本的知識を身につけると共に、日常生活上のケアとして関わる際の注意事項を学ぶ。</p> <p>講義・演習①（4時間）</p> <p>シーティングや移乗動作の支援に関する基本的な考え方（ボディメカニクスや運動力学を基にした知識）を学び、実技でその理論の実践を行う。また、講義①～⑤で学んだ疾患への対応を、実技を通して復習するとともに理解を深める</p> <p>講義・演習②（4時間）</p> <p>脳血管障害、大腿骨頸部骨折などの事例を想定して、具体的に相手の残存機能をどの様にアセスメントし、それに基づいた安全な介助や環境調整、ケアなどの方法について、実技を通して学びを深める。また、転倒に関するリスクマネジメント、他職種との情報共有による自立支援に向けたケアのあり方についても、講義と実技を通して学ぶ。</p> <p>事後課題①（3時間）</p> <p>事前課題①を振り返りつつ、本科目で学んだ事項を踏まえ、改めて「あなたが</p>
---	--

		考える自立支援に向けたケア」について、1,600 文字程度で論述すること。
研修方法	■通学課程 ■課題学習	
	○集合研修は講義と演習を組み合わせる。 ○課題学習は事前・事後課題としてレポート課題を課す。評価は担当講師が行う。	
研修時間	30 時間（8 時間分はレポートで実施）	
修了要件	1. 当該科目の対面授業の全課程に出席していること。 （出欠席・遅刻・早退の取り扱いは別紙4のとおり） 2. 事前・事後レポート、計画書等の提出の指示がある科目の場合、提出期限内に提出し合格していること。 3. 当該科目が示す修了評価において、C評価以上であること。 * 修了評価について 筆記試験及びレポート試験の評価は別紙 5 の評価基準を用いて実施する。	
講師要件（講師の選定基準）	* 当該科目における十分な知識、専門性を有し、講師等の教育経験がある者 * 補助者についても当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師などの教育経験がある者	
(2) 受講者について		
受講対象 （受講要件）	・「認定介護福祉士概論」を修了していること。 ・「生活の支援の為の運動学」を修了していること。 ・「生活支援の為のリハビリテーションの知識・技術」を修了していること。	
修了評価（習得度、研修成果）	到達目標に達しているかをレポート試験及び筆記試験を実施し、別紙 5 の評価基準に照らして実施する。 50 問の筆記試験で実施し、100 点満点中 60 点以上で合格(修了)とする。	
(3) 研修の環境条件		
定員（講師の配置基準）	30 名（講師 4 名） 演習時も同一の講師が行う。 * 講師 4 名。補助講師(ファシリテーター)の配置については、当該講師の授業運営に応じ、適切に配置する。 * 尚、その際には当該講師が意図したことを理解し、適切な介入ができる能力を有する者であり、受講生 8～10 名に対し 1 名を置くものとする。	
開催場所（都道府県）	群馬県	

コマシラバス 以下の表は対面授業 2 2 回分として

回数	科目名 (回ごとの項目)	時間(分)	内容
1	神経筋疾患とは	60 分	神経筋疾患 (パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、重症筋無力症など) における各疾患特異的な症状について学ぶ
2	脳血管障害とは	60 分	脳血管障害に関する基本的な病態について理解し、特異的な症状が出現上様するメカニズムを理解する。
3	神経筋疾患と脳血管疾患における生活支援の実際	60 分	神経筋疾患と脳血管疾患における症状に配慮した生活支援の考え方、注意点などについて学ぶ。
4	認知症の基本的知識と支援の実際	60 分	神経変性疾患による認知症 (アルツハイマー病、レビー小体病、前頭側頭葉変性症など) の代表的な症状について、理解を深める。また、実際の介護現場でそれらの疾患特異的な症状にどの様に配慮して生活支援を考えるべきかについて学ぶ。
5	精神疾患の基本的知識と支援の実際	60 分	精神疾患における基本的な症状について、理解を深める。また、実際の介護現場でそれらの疾患特異的な症状にどの様に配慮して生活支援を考えるべきかについて学ぶ。
6	高次脳機能障害と発達障害の基本的知識と支援の実際	60 分	高次脳機能障害や発達障害における基本的な症状について、理解を深める。また、実際の介護現場でそれらの疾患特異的な症状にどの様に配慮して生活支援を考えるべきかについて学ぶ。
7	内部障害の基本理解と生活支援①	60 分	高齢者に多い内部障害の基本理解を深めると共に各疾患特異的な症状に配慮した生活支援の考え方を学ぶ。具体的には、「循環器疾患」の基本的な病態メカニズムを理解するとともに、疾患の特徴に応じた生活支援上の注意点などを学ぶ。
8	内部障害の基本理解と生活支援②	60 分	高齢者に多い内部障害の基本理解を深めると共に各疾患特異的な症状に配慮した生活支援の考え方を学ぶ。具体的には、「呼吸器疾患」の基本的な病態メカニズムを理解するとともに、疾患の特徴に応じた生活支援上の注意点などを学ぶ。
9	内部障害の基本理解と生活支援③	60 分	高齢者に多い内部障害の基本理解を深めると共に各疾患特異的な症状に配慮した生活支援の考え方を学ぶ。具体的には、「代謝性疾患」の基本的な病態メカニズムを理解するとともに、疾患の特徴に応じた生活支援上の注意点などを学ぶ。
10	整形外科疾患の基本理解と生活支援①	60 分	整形外科疾患 (変形性関節症、骨折、脊柱管狭窄症など) の基本的な病態とその基本的な治療方法を学び、禁忌事項や禁忌肢位などについても学ぶ。
11	整形外科疾患の基本理	60 分	第 10 回で学んだ知識を踏まえ、荷重制限や禁忌肢位を

	解と生活支援②		踏まえたケアについて理解する。また、拘縮・変形について理解するとともに、それを予防するためのケアについて学ぶ。
12	整形外科疾患の基本理解と生活支援③	60分	第10回と第11回とで学んだことを踏まえ、日常生活上のケアで配慮すべきポジショニングやシーティングについて、実技も踏まえて理解を深める。
13	脊髄損傷、切断の基礎と生活支援①	60分	脊髄損傷、切断に関する基本的知識を身につけると共に、日常生活上のケアとして関わる際の注意事項を学ぶ。
14	脊髄損傷、切断の基礎と生活支援②	60分°	脊髄損傷や切断の対象者への生活支援について、福祉用具の適用や住環境整備の科目とつなげて理解できるようになるための基本的な理解を深める。
15～18	基本動作とシーティング、日常生活活動 ADL の支援について (講義・演習)	60×4	シーティングや移乗動作の支援に関する基本的な考え方(ボディメカニクスや運動力学を基にした知識)を学び、実技でその理論の実践を行う。それとともに、ここまでの学んだ各疾患の Activities of daily living (ADL) への対応を、実技を通して理解を深める
19～22	各疾患の自立支援に向けた多職種協働による具体的支援 (講義・演習)	60×4	脳血管障害、大腿骨頸部骨折などの事例を想定して、具体的に相手の残存機能をどの様にアセスメントし、それに基づいた安全な介助や環境調整、ケアなどの方法について、実技を通して学びを深める。また、転倒に関するリスクマネジメント、他職種との情報共有による自立支援に向けたケアのあり方についても、講義と実技を通して学ぶ。

(別紙3) 認定介護福祉士研修認証更新

認証更新申請する研修の実施体制等 (届出事項)

(1)研修の実施予定	
実施日	① 平成 30 年 9 月
	②
	③
開催場所 (会場)	① 群馬医療福祉大学 前橋キャンパス
	②
	③
(2)講師	
担当、氏名及び略歴	山口智晴 群馬医療福祉大学 教授 ●略歴 群馬大学大学院保健学研究科卒 博士 (保健学) 群馬県内の病院施設に勤務後、専門学校教員を経て現在に至る ●資格など 作業療法士、福祉住環境コーディネーター1級 ●社会活動 群馬県作業療法士会副会長、高次脳機能障害者の家族会 NPO 法人ノーサイド副理事長、群馬県 PTOTST 連絡協議会介護予防部長、前橋市認知症初期集中支援チームチームリーダー、群馬県介護予防活動普及展開事業アドバイザー、認知症認定・専門看護師の非常勤講師など
	宮寺亮輔 群馬医療福祉大学 講師 ●略歴 文京学院大学大学院 修士 (保健医療学) 埼玉県内の病院・施設や大学に勤務後現在に至る ●資格など 作業療法士 ●社会活動 日本作業療法士協会教育部部員・演題査読委員、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教員等講習会委員、日本シーティング・コンサルタント協会学術局委員等を務める。

	<p>牛込祐樹 群馬医療福祉大学 助教</p> <ul style="list-style-type: none"> ●略歴 群馬大学大学院保健学研究科 修士（保健学） 群馬県内の病院で作業療法士として勤務後、現在に至る ●資格など 作業療法士 ●社会活動 群馬県作業療法士会学術部長、群馬ハンドセラピー研究会代表などを務め、主に整形外科系疾患を専門とする講演など多数経験あり。
	<p>高坂駿 群馬医療福祉大学 助教</p> <ul style="list-style-type: none"> ●略歴 群馬大学大学院保健学研究科 修士（保健学） ●資格など 作業療法士 ●社会活動 群馬県作業療法士会理事、介護職員初任者研修講師、福祉用具専門相談員指定講習会講師、高崎市生活機能向上指導講師派遣事業講師など多数の講師を務める。主には精神科領域の作業療法を専門とする
(3)実施体制	
<p>研修の企画運営の組織 (担当部局・人員)</p>	<p>認定介護福祉士養成委員会(9 名) 群馬県健康福祉部 介護高齢課 1名(オブザーバー) 群馬県介護福祉士養成施設協会 1名 群馬県介護福祉士会 1名 群馬県老人福祉施設協議会 1名 群馬県老人保健施設協会 1名 群馬医療福祉大学 2名 短期大学部(事務局) 2名 運営担当 群馬医療福祉大学 短期大学部 3名 ・研修委員会において各科目の教育目的や到達目標を確認し、担当講師と科目間の連関や留意点について共有する。 ・研修委員会のメンバーは研修の補助を行いつつ、研修内容の整合や新たに含むべき内容があるかなど、研修見直しの一助も担う</p>
<p>研修の企画運営に関する諸規程</p>	<p>研修委員会設置要綱</p>
<p>研修管理責任者職名</p>	<p>群馬医療福祉大学 短期大学部 教授</p>
<p>研修管理責任者氏名</p>	<p>白井 幸久</p>
<p>機構問合先部署</p>	<p>群馬医療福祉大学 短期大学部 事務局</p>
<p>機構問合先担当者氏名</p>	<p>矢嶋 栄司</p>
<p>機構問合先電話番号/FAX</p>	<p>電話 027-253-0294 / FAX 027-253-0294</p>
<p>機構問合先 e-mail アドレス</p>	<p>shimizu-k@shoken-gakuen.ac.jp</p>
<p>受講問合先部署</p>	<p>群馬医療福祉大学 短期大学部 事務局</p>

受講問合せ先担当者氏名	矢嶋 栄司
受講問合せ先電話番号/FAX	電話 027-253-0294 / FAX 027-254-0294
受講問合せ先 e-mail アドレス	shimizu-k@shoken-gakuen.ac.jp
(4)研修履歴の管理体制	
受講者への付与単位部門	群馬医療福祉大学 短期大学部 事務局
受講履歴の管理方法	<ul style="list-style-type: none"> *紙媒体及びデータによる台帳管理する。 *外付けディスクにバックアップデータを保管する。 *データの保存期間は10年間とし、その後は外付けディスクにてデータを保管する。 *個人情報の取り扱いにあたっては、法律を遵守する。
受講履歴の証明	全課程を修了した者には、認定介護福祉士養成委員会により修了証書を発行する。
管理責任者氏名	白井 幸久
管理担当者氏名	矢嶋 栄司